

---

Chocolate 甘い初恋

三月 亜莉棲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Chocolate 甘い初恋

### 【NNコード】

N4076Y

### 【作者名】

三月 亞莉棲

### 【あらすじ】

工藤新一はたまたま、居眠りをしていたとき、クラスメートの甘音沙琶は

少し不安があった。そしてとうとう、先生がその不安の種の話を始めた。

それは、『今日、交換留学生を決めようと思つていてる。』毎年、代表の交換留学生はロンドンの『ファルダンタンハイスクール』に行き3日過ごした後、代表を決めつれて帰り代表は3日間帝丹高校で過ごすところのもの。

毎年、代表になっていた沙織は昔住んでいたロンドンに行くのに飽きていて、代表になりたくなかつたが先生は『今年は代表をココのクラスだけ4人にするそつだ！』と告げられて・・・

このお話は、新一がコナンになることはありません。  
また沙織と新一が恋をするというお話ではありません。

## 登場人物

工藤新一（高3）

高校生探偵、成績優秀スボーツ万能。完璧な存在だが、蘭だけにはかなわない。

毛利蘭（高3）

空手部大会優勝経験アリ。美人でとてもフレンドリーだが、やさしすぎてだまされてしまう事多々アリ。

鈴木園子（高3）

鈴木財閥の令嬢。  
蘭の幼馴染で新一とは悪友。

甘音沙琶（高3）

10歳までイギリスのロンドンに住んでいた。

毎年、交換留学生に選ばれ今年もなつてしまいのではないかと不安。

成績優秀で英語の他5ヶ国語をしゃべる事が可能。

水間涼希（高3）

沙琶の幼馴染で沙琶と同じく10歳までロンドンに住んでいた。

沙琶と同じく交換留学生に選ばれるのを嫌がっている。《理由は上同》

成績優秀で英語の他5ヶ国語をしゃべる事が可能。

港都ジュリア（高3）

沙琶の幼馴染。しかし沙琶とは違い、ジュリアはフランスのパリに

住んでいた。成績はまあまあだが、語学は得意で沙羅と涼希と同じく5ヶ国語を話す事が可能。交換留学については上回。

紅岬梓（高3）

フランスの学校から転校してきた。

3ヶ国語を話す事が可能。

サラー・コーラル

フェルダンタンハイスクールの生徒。

日本語が話せる。

ビスター・アレイン

『上同』

サラーの幼馴染。

イザベラ・ルーラ

愛称はベラ。

日本語が話せ、5歳までフランスに住んでいた。

パーシー・ジェイソン

ベラの彼氏。10歳まで日本に住んでいた。

増えるかもしれませんがよろしくお願ひします！

Chocolate 1 (前書き)

園子視点です。

「おはよっ蘭ちゃん。」

「おはよー、沙羅ちゃん。」

「わうこえません、もつすべだよね・・・」

「ああー、交換留学? いいなあ沙羅ちゃんは毎年言つてるんでしょ?  
あたしも行きたい」

「あたし的にはフランスがいいな、ジュリアの故郷だし、お父さんもフランス人でしょ?」

「うん。 ただけど、あたしはベルギーがいい! だってフランスもイギリスも行き飽きたもん。」

「うせーな。」

「あとうからよくそんな話できるわなあ。 まつ俺も行きたい  
なーのはおんなじだけよ。」

「涼希だけはやーゆーのわかってくれるから許せる。」

「なのに新一はびつじて・・・」

「ちよつ・ひよりん?」

(殺氣が・・・汗)

「おひや――――――」

「おわつー?」

始まった・・・(汗)

どうしてこうなのかねえ・・・  
お互い好きなのは見え見えなのになんで付き合わないのかしらー・・・  
ほんと、苦労するわ・・・(呆)

「席付けー! 転校生がきどるぞーーー。」

「どんな子お?」

「ほんにんに聞け。入れ。」

「失礼します。」

「おわつー」

「――藤あぶねえー!」

「くつーおわつと。」

フウー。眞安心、転校生にぶつかるといだつた。

「――藤・・・お前は・・・(怒)」

「先生まで怒らないでくださいよ。逃げるの大変なんすから。」

「席に着け。」

「へーい。」

新一君バカじゃないの?

早く名前聞きたいなあ。どんな子だろ?

「じゃあ自己紹介しる。」

「紅岬梓です。フランスから來ました。

もうしくお願ひします」

「じゃあ鈴木の右横だ。」

おー!あたしの隣じゃーん

「よろしくね?紅岬さん」

「うん...よろしく

「それと世にお知らせがある。」

「なーに?先生。」

「今年もやつて來た。交換留学だ。」

「「「「「やつた————。」「」」」

「それで代表を決めたい。投票でしょ?つと頑つからぬ、

代表になつてもらいたいやつを考えとけ。

「 「 「 「 「 「 は――――――」 」 」 」 」 」 」

今年は誰だろ。

去年。新一君と蘭が代表で行つたけど・・・

「あつそれとー。」

「それと?」

「今年は代表が4人になつた。しつかり考えとけー。」

ザワザワッ

ありやつやあ・・・

どうしよう。あと一人はどうしようかなあ・・・。

Chocolate 2 梓の思い（前書き）

梓視点です。

## Chocolate 2 梓の思い

「それどうじ」と……？」

「JijはFranceのParis。  
フランス  
パリ

今回は私が、帝丹高校に来る前のお話をするわ。

「だからな……日本に転勤だ。」

私のお父さん、紅岬聖は外務省に勤務していく  
海外への転勤は普通だった。

そして今回、私は日本に戻らなくてはならなくなつた。

「お母さんはどうするの？お母さん、『離れられないよ。』

私のお母さん紅岬麗華はFranceで有名な  
麗華は  
れいが

洋服ブランド＆チョコレート会社の社長。こつちに来てお母さんは余裕ができたから趣味としてはじめたのが大当たり。いまではFranceを歩くと周りはほとんどお母さんのブランド『フェリーチュ』

の洋服を着ているし、みんな私に『フェリーチュのチョコレート残ってる？』って聞いてくる。

「母さんもついてくる。日本にも『フェリーチュ』を開くんだ。」

「よかつた……でも私、友達と別れたくない。」

私は、生まれてすぐFranceに来てずっとこっちだつたから友達と離れるのは悲しかつた。

「じつはな・・・お前をいつに残すとしばらく連絡が取れなくなるんだよ。」

「なんで?」

「日本で父さんは外務省の方につくんだ。だから忙しくて母さんも父さんもお前に連絡できんのだ。だから・・・我慢してくれ。」

「わかつた・・・私、行くわ。」

「うひして、私は日本の東京の帝丹高校に転校する」とは決まったの。

## Chocolate2 梓の思い（後書き）

わたくして・・・」の先、またたく話を考えておひません！

（じつは他の話のそんな感じで思いつきで話進めるんで最後までじつなるか大抵

わかりません・・・）

ですが、すぐに投稿しますのでお楽しみをー（おこおい・・・）

## Chocolate 交換留学に行くのは誰？

「それでは、いまから交換留学の代表を決める。  
4人の名前を紙に書いてここに出せ。」

「 」「 」「 」「 はい。」「 」「 」「 」「 」

みんなが紙を出して結果を見た。

結果・・・

工藤 15

甘音 14

毛利 11

水間 6

港都 4

「つてことで代表は工藤、甘音、毛利、水間だな。」

「またかよ・・・。」

「工藤・・・。よろしくな・・・。交換留学。」

「おう・・・。」

「やつた 交換留学大好き!」

「のんきでいいなあ・・・蘭ちゃん。」

「さすが毎年行ってる人はちがうねえ・・・」

「当たり前でしょ? ってか、1年行ってないとそんなに楽しみな  
わけ?」

「もっちらん!」

「あきれる・・・」

「そうだー！交換留学の代表4人は放課後に職員室に来いよー！」

「めんどくせー。」

「上藤、来ないと明日居残りさせるぞ。」

「うひ。まい。。。

と言つわけて交換留学は、

新一、蘭、沙雪、涼希で行く事になつたのであつた（チャンチ  
ヤンチ）

「じゃあ工藤、毛利、甘音、水間。頑張って来いー・それとつれて  
くるのは4人だから

間違えて2人にしないよ!!」

「「「わかつてます。」「」「」

そして、飛行機内に入ったものの・・・

「席、どうする？」

「そういうやうだな。」

そう、蘭と新一はカレカノ同士だし、沙悟と涼希も幼馴染だから。  
沙悟と涼希的には  
蘭と新一を隣同士にしてやりたいのだが、上の発言をした人物が  
蘭だったためどうしようか  
困ってしまった。

「あたしはどうでもいいよ。」

「俺も。」

「俺もだな。」

「じゃあグッとパー？」

結局コレだ・・・

「「「グッとパーで分かれましょー」「」「

結果は・・・

「あたしパーみたい。」

「私はグーだよ。」

「俺はパーだけ。」

「俺はグーだぜ。」

やつてしまつた・・・

蘭と新一を隣にして、思ひつけられ、  
いつも気が合つ沙悟と涼希はいつも通つ、手を出しだが  
いつもなじ同じはずなのに、いつも限つて新一と沙悟、  
涼希と蘭になってしまった。

「じゃあ、沙悟ちゃんたぬけに座つて? 私たちはコレでこー。」

「「「OK」「」

しょうがなく、沙悟と涼希はお互いの席に座つた。

新一は少々がっかり氣味のよつだ。

(工藤君、『めぐね?』などは涼希となると思つたんだけビ・・・

)

(じょうがねーよ。甘音にもわづーしな。)

(あれ? ちゅうと工藤君まつて? 涼希からだ。工藤君によ。)

そのメモサイズの紙に書かれていたこととは、

工藤

わりーな俺、てつあつ沙體と一緒にかと思つたんだけビ・・・

帰りの飛行機では、お前を毛利の横に座らせてやめやー。

水間

(なんだよ! れ笑)

(ねつ? 思つてることも一緒になんだからあたしたちお互に横同士にしちよつとしてたんだ。)

(あらがとな。甘音。)

(ううう。)

そして、お互に、趣味が一緒なせいいか(蘭と涼希の場合は涼希が

合氣道をしていたから、そして  
沙織と新一の場合はシャーロックホームズが好きなのと父親が作  
家ということ（ずっと  
お互いの話に夢中になっていた。

## Chocolate5 ファルダンタンハイスクール

俺たちはとりあえず、ハイスクールについた。

自己紹介は終わって静かになるかと思ったら・・・

「Mr. Kudo is a high school student detective? He is I Hwang! Give me a sign? (工藤君って高校生探偵だよね? 私ファンなの! サインちょうだい?)」

「Although it is good . . . (いいけど . . . )」

「It did! - - (やった――!)」

とまあこんな感じで休み時間、俺はとにかく大変だつたんだ・・・。

まあ蘭の場合は、

「It is lovely. It will go to play after school. (可愛いね放課後遊びに行こう。)」

「Even if it says suddenly . . . (いきなり言われても . . . )」

「これはさすがにいらっしゃった。

でも、甘音がなんとかしてくれたから大丈夫だった。

そして、夜はここで仲良くなつた友達の家に行くことになった。

しかも、隣の家同士の友達に誘われたんだ！

丁度いいから甘音も蘭もOKしてた。

俺たちはたまたまその子の Boyfriend (彼氏) にあたつたんだけどね・・・(笑)

それで、甘音と蘭はイザベラ・ルーラの家に、俺と水間はパーシー・ジョイソンの家に行く事になつた。

(まあ寝る前まではほとんど一緒にだったけどな。仲いいし、楽しかったから)

パーシーは日本語がしゃべれるから(てかしゃべりたいらしい)ずっと日本語だった。

「なあ、工藤。毛利つてお前の彼女?」

「そうだけど?」

「美人見つけたな。幼馴染だったつけ?俺もそうだな。」

「つてか工藤、お前小学生んときから毛利好きなんだろ?」

「えつー・まじかよ工藤ー・水間ー・詳しく述べてくれよー。」

そんな感じで延々と俺と蘭が出来つづ縦縦と付き合つまでも水間に  
はなされちまつたんだよ（涙）

女トはだつしたんだろ？

「明田は、パーティーがあるのよ！」

友達の中で何人が呼んでるからよかーたらこなし?」

「いたい！」

私たちは、イザベラ（以後ベラ）の家でいろんな話をしてるの！

ベラはお母さんがハリウッド女優で、いまは家にいないんだけど、お父さんが家で弁護士の仕事をしていて、すっごくかっこいいお父さんなの！

明日は、べラのお母さん主催のパーティーがあつて、それに出て  
欲しいって！

「じゃあ、今から来て。明日着るドレスを選ばなきゃ。」

「え！・・・いいの？借りちゃつて。」

「大丈夫よ。行きましょう。」

## ファッショングルーム

「す、す、」こね・・・。」

「ドレスがいっぱいね。ベラ、これあなたの？」

「ゲストの人やもちろんお母さん、そしてあたしのもあるわ。  
それでも好きなやつをどうぞ」

沙織ちゃんが思いついたみたいにいい始めたんだけど・・・

「ねえねえ！みんな他の人のドレスを選ばない？あたしが蘭ちゃんのを選ぶ！」

「じゃあ、私は沙邑のドレスを選ぶわ。」

「じゃああたしがベラ?」

「...」

ところどころ、お互いのジースを選ぶ事になつたんだ。

靴と、髪飾りの選んでね？髪型はマイクアーティストに頼むか

גַּם־עַל־בְּנֵי־יִשְׂרָאֵל

「ええ。」

蘭が、ベラに選んだのは、シャンパンゴールドのリボンとパール

と貴重としたドレス。

髪飾りは、少し濃い、クリーム色のリボン。靴は、シャンパンゴールド。

ールドのパンプスでパールが付いている。

「じゃあ蘭はこれ！」

沙琶が見せたのは、淡い薄めのブルードレスで腰の辺りに白のリボンが巻いてあるミニドレス。

髪飾りはシンプルな黒のカチューシャで靴はドレスに合わせたブルーの靴。

「じゃあ沙琶、あなたはこれかしら？」

ベラが選んだのは、クリーム色の胸元にピンクのバラのロサージュが付いたドレス。

髪飾りはピンクのオシャレなかんざし。

「じゃあこれでOKね、じゃあ明日のために確認でびりこつ風になるか見ておきましょう？」

マイクさんがまつてゐるし。」

こうして、女子はパーティーに出る準備が整い、パーティーに向けて確認用のドレスアップをはじめた。

# Chocolate7 パーティーに行く前に・・・(男子編)

「うるさいなあ……少しだけ静かにしりよ。」

「そりゃあうるさいよ！」迷走してんだろ！」

聞いてない世!! バ!! ヴイ!! なんて!!

だから準備すんださーか。女子はベテガ準備させてる。

ハセヤケタナリ

だって当日になつて『今日パーティーに行くから準備しに行くぞ』とか言われて

寶石花  
卷一  
生  
花  
方  
言

# 女のドレス姿。

「みたいかも・・・。」

「お、俺は別に・・・！」

おいおい

涼希・・・あそつか。涼希と甘音は結ばれてないんだつけ？

まあ昔の俺たちみたいな感じだけどよ。

「ヒリエスナヒリヒ。皆待つてる。」

まあスーツを着せられた俺たちは、パーティー会場に行くことに  
なったんだ。

しかも、涼希と俺のスーツ、サイズピッタしなんだけど・・・。  
もともと行かせるつもりだったな・・・。ひりや（汗）

## Chocolate 初恋が実るパーティー（前編）

「おいおい……なんだよこれ。」

パーティー会場には男性がある人たちを中心にして集まって囲んでいた。

「俺も予想外だ……。」

「もちろん。中心は……。」

「蘭つ……」「沙琶……」「ベラつ……」

「コンシ ノンシ

「新一……」「涼希……」「ハーイ。パーシー。」

「……」「嘘だろ……。」「……」

そう、いつもと違う彼女たちが（涼希にとってはまだ幼馴染）目の前に立っていて  
とっても綺麗だからだ。

「変だつた?」「変だつたかしり?」「変……かな?」

「……」「いえいえ全然。」「……」

「 「 「 よかつた 」 」 」

それからパーティーは着々と進んで夜も更けていくのであつた。

Chocolate 8 初恋が実るパーティー（前編）（後書き）

題の通り、次回は後編です（笑）

たくさんおしゃべりした。

すっごく楽しかった。

でも、ひとつわかったことがあった。

あたしは涼希が好き。

そんな時、

「なああつちいかねーか？」

「？ う、うん。」

涼希は奥のベランダの方につれてきてくれた。

あたしが、人ごみが苦手でそろそろ黙りじやないかと氣を使ってくれたみたい。

「夜風つて気持ちいいね。」

「そうだな、でもあたりすぎると風邪引くぜ？ 着とけよ。」

涼希がカーディガンをかけてくれた。

あつたかい・・・。

「あのさ~涼希って・・・好きな人いるの?」

「へつ? 唐突だなあ・・・。でも、いるよ。」

そんな・・・。

そつか、あたし涼希のこと好きになっちゃいけないかつたのかな。

「お前だよ。」

「え・・・?」

あたしは涙をこじりえながら驚いた。

「いま・・いまなんて・・?」

「だから、お前なんだよ。好きな人は、甘音沙織。」

「う・・そ・・」(ポロッポロッ)

「お・・おい。いやだつたか?いやだつたんなら

「ううう。うれしかつたの・・・。あたしも・・・あたしも涼希  
が好き!」

涼希が抱きしめてくれた。

涼希の腕の中はすつこくあつたかかった。

あたしは、涼希じゃないと駄目なのかも知れないな・・・。

I  
L  
o  
v  
e  
y  
o  
u

交換留学ファルタンタンスクール代表は・・・（前書き）

パーティーの2日後です

英文に訳すのがめんどくさいので  
日本語で書きます（『』が英語です）

交換留学ファルダンタンスクール代表は・・・。

『それでは、そろそろ我が校からの代表を決めたいと思います。』

ザワザワ

クラスがざわめき始めた。

『静かにしてください。 それでは、私たちが決めた代表者を発表したいと思います』

沙琶が綺麗な鉛のない英語で話し始めた。

そして、字の綺麗な蘭がホワイトボードに名前を書き始めた。

Percy Jason

Isabella ruler

Salah Coral

Vista aren'e

『この4人です。出発当日までに準備をしておいてください。』

ベラとパーシー。そして、残りの2人はもともと新一が前の  
交換留学で仲良くなつたビスター・アレインと同じく蘭が仲良くな  
つた  
サラ・ゴーラル。

日本での交換留学はうまくいくのか！？

## ただいま帝丹高校！

「ついで、仲良くなるついで英語でもやつせ勉強しり。俺は今までやつくなかったな。」

はー！

新一君と蘭、そして沙悟と水間君が帰つてきました――――

「園子、ただいま」

「お帰り！蘭。」

「初めまして！アナタが園子ちゃん！お話は蘭から聞いてます

「うん…やうだよ。日本語上手ね」

「ありがとうございます。私はカラーラーラル。よひしく

「鈴木園子。よひしく」

むいりでも仲良くなじみべつしてゐる。

男子の方も日本語ではなしてゐなあ。

「 そ う だ っ た 。 今 日 、 私 何 处 に 行 く 事 に な つ て る の ？ 」

^ . つ ?

କବିତା

「ああ。それだったら、私も含めて新一の家にお泊りだね。」

「ああ工藤君？確かに相当でかい洋館だつたわね。」

「うん、そうそう。無駄にでかい。」

— いえてる（笑） —

「ああ今田泊あるとこね？」

גָּמְנִי

なんだよかった。どうかで遊びに行くのかと思つた。

あたしがいけないからね。今日は父さんの面倒見（つてかお手伝い）しないといけないから・・・。

ちよつとめでよ?

「どうしたの？園子ちゃん。」

「あたしのいじは園子でいこよー。それと今日・・・・。ベリーパー」

「ほへつ？」

ベラ、間抜けな声だしちやつたわね・・・それはそうと・・・

「今田、どうちに泊まるんじやなかつたつけ? ベラとパーシー。」

とゆづわ子で・・・・・ギヤー、ギヤー、いつでござるんなさい。

(汗)

今日からよろしく

(ちょっと！声がでかい！)

(あ・・ごめん。つてかそれつてほんと?)

（うん、ほんと。私とパーシーはこっちに両親が住んでて  
こっちの会社のほうにオフィスを移すからこっちに住むって。  
だから高校はここよ。）

わりー  
な。

園子がなんで叫んだかつてゆーと・・・

まあわかるだろーけどよ。

ベラがパーシーと一緒にこっちに移り住むんだ。

ビスター達は向こうに帰った日。

ベラたちが（園子はいなかつた）みんなにそれを伝えたんだ。

他のクラスに聞かれたくないから耳打ちしてたんだけど……あ

れじゃバレバレだな。

「オイ！席つけ――！  
ホームルームはじめんぞ――！――！」

みんなザワザワ席についた。

今日からメンバー増えてよりいっそいひになつたぜ・・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4076y/>

---

Chocolate 甘い初恋

2011年12月1日17時50分発行